

第1回競技委員会速記録

2010年8月28日(池田山カップ開催中)

出席者：松村貴博、牟田園明、内田秀子、北野正浩

記録：北野

目的

- ・前任者からの引継ぎができていないので、全員が初めて顔を揃えたこの大会で競技委員会を開催。
- ・新委員の役割分担を明確にする

競技委員会の仕事

1. 大会公認
2. ルールブック作成、更新
3. ランキング・集計
4. シリーズ登録
5. CIVL総会の事前打ち合わせ

「大会公認」

松村：書類に不備があろうとなかろうと認めざるを得ない。
JHF事務局は、保険の手配の都合もあるので、できるだけ早く公認を出したい。
明らかに書類に不備がある場合は委員会が突き返すが、実際には難しい。

誰が公認を出すのか？

委員全員で協議してから出すのは難しい。

→例えば、担当者を決め、1週間以内に意見がなければ担当者が公認を出す。

1週間は長い→3日くらい？

月曜日に申請を受けて木曜までに出せば事務局は金曜日に処理できる。

そうすると、やはり1週間？ わかりやすい。

担当者は、事務局からメールがきたら委員会に振る。

1週間以内に意見がなければ委員会各位に「公認しますよ」と宣言し、JHF事務局に連絡する。

誰が担当者になるか→北野

「CIVL総会(プレナリー)の事前打合せ」

CIVLから議題が送られてきたら、各議題に対してどの意見に投票するか、等を検討し、日本のデレゲート(岡さん)が出国する前に、委員会の案を伝える。
委員会の意見をまとめることが必要。

「ルールブック改訂」

改訂前に、1か月以上の公示期間が必要。

例年、10月末(実質、EJCの時)に公示している。

それ以前からメールで意見交換しておかないとまとまらない。

暦年をまたぐ日程で西富士の大会を実施していた頃

→大会最終日が翌年なので、翌年のルールを適用。

今年度のルールの問題点

- ・ヒート制

→初年度なので、色々問題はある。

牟田園：ヒート制で国内ランクを出し、世界選選抜は別集計するという設計自体に違和感がある。
→今後、議論する。

・タスクストップ
→発動基準があいまい。大会運営マニュアルが必要かもしれない。

・GAPパラメーター
牟田園：ノミナルタイム1.5時間の方が良いのでは
松村：「35km、1時間」でタスクを組まざるをえないエリアもあるし、様々なエリアでの競技成立条件を考慮した結果、現在のパラメーターを決めてある。

「集計」
今年松村、来年牟田園が担当
内田：太田祐輔氏が作ったマニュアルを使い、大会運営者が集計をするようにすれば、選手を兼ねる集計係(松村、牟田園)の負担が減るのでは？
牟田園：不特定多数の人が集計するのは良くない。
松村：特定の人がやるようにしないと、問題が起きたときの処理の方法が違ってきてしまい、面倒なことになる。トラブルシューティングを統一する必要がある。
牟田園：集計できる人は4人くらいほしい。2人ではつらい。

・大会運営側の事情(集計係を雇うと経費がかかる)により、集計係を選手が兼ねるという状況が続いている。
→問題は色々あるが、打つ手なし。
→内田も集計できるように練習する。

「シリーズ登録」
内田：牟田園がすでに登録事務をしているが、お金の管理は？
松村：入金・振込みの確認はできるが、お金はJHFに直接送金されるので、委員がさわることはできない。
牟田園：登録手続きを簡素化しているが、入金確認だけが自動化されていない。
→今後、シリーズ登録は内田が担当する。

・大会直前に申し込みがポロポロ来る
→選手から現金を集め、競技委員会の口座に振込む。
→口座番号を入力してログインし、通帳を確認する。
松村→内田にパスワードを伝える。

その他
「スポーティングライセンス」
北野：カテ2大会では取得を強制するべきである。
この問題で、今春の女子世界選手権の際、CIVL会長(John Aldridge)から日本の連盟の大会運営はどうなっているのかと厳重に注意された。
ライセンス無しで日本選手権に参加していた女子選手が、出場資格を認められなかった。
大会結果をCIVLに送る際、ライセンス有りの人と無しの人を別集計しているのは本筋からはずれる行為。

→議論が必要。

現在、カテゴリー2で開催しているのは日本選手権と板敷スプリングフライトのみ。
参加資格に「スポーティングライセンス」と書いてあるのだから、初日受付時のチェックを厳しくすべきである。

いっそ、シリーズ戦全てをカテ2にしては？

→昔はしていた。

選手の参入障壁が上がるのが問題。

大会参加者、シリーズ登録者の減少を食い止めたいのに、余計に費用がかかることを強制するのは難しい。

「大会広報」

北野：大会開催時には、地元メディアに大会の案内を送り、ハングをアピールしてはどうか。

内田：競技委員会が広報そのものを担当するのは負担が重すぎる。

北野：ならば、大会主催者に、地元メディアに大会のことを伝えるよう要請・助言する方法は。必要ならば、委員会で、標準的な雛型やマニュアルを用意しては。

「競技委員会ホームページ」

牟田園：委員の名前を載せるべきである。誰がやっているのかわからないと、意見も言いにくいと思う。

「競技委員会の話し合い」

・個人メールではなくメーリングリストを作る

→過去のやり取りを残せる

→毎回複数の宛先を打つ手間が省ける

・牟田園がメーリングリストを作成する。

以上